

研究データ利活用協議会小委員会活動報告

国内の分野リポジトリ関係者のネットワーク構築 改め ジャパンデータリポジトリネットワーク(JDARN) 紹介

絹谷 弘子 (東京大学地球観測データ統融合連携研究機構)

北本 朝展(情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター / 国立情報学研究所)

http://www.japanlinkcenter.org/rduf/



設立目的

- 1. JaLCでの研究データへのDOI登録実験プロジェクトで行われた議論をデータリポジトリ運営について深化させること
- 2. 国内にあるデータリポジトリの信頼性を国際的に期待されている水準に高めること
- 3. データリポジトリへの要求の多様化に対し、 共通の課題を議論すること
- 4. データリポジトリコミュニティを作ること

よりよい研究データ管理と運営がわかる専門家 集団をめざしています。



委員の参加機関



The Noguchi Institute 公益財団法人 野口研究所



地方独立行政法人

北海道立総合研究機構(道総研)



































今までの活動

- 1. 2017年12月 CoreTrustSealを使ったセルフアセスメントを試みるワークショップを開催。
- **2. 2018年2月~6月** CoreTrustSeal認証のどこが難しいのか(特に日本で)を議論。
- **3. 2018年7月~9月** CoreTrustSeal認証から データリポジトリ設立・運営に必要なアイテムを抜き出して議論
 - ---- 小委員会 JDARNとして再始動----
- **4. 2018年10月~** 日本のデータリポジトリの信頼性を高める為に「データリポジトリガイドライン」として必要な内容を整理・議論



JDARNの目的

- □データリポジトリコミュニティを作ること
- □よりよい研究データ管理と運営がわかる専門家集団を作ること
- □データリポジトリへの要求の多様化に対し、 共通の課題を議論すること
- □国内のデータリポジトリの信頼性を、国際 的に期待される水準に高めること



データリポジトリの信頼性



リポジトリの信頼性

信頼性

コンテンツ

データ品質

コンテナ

組織・人材・情報システムなど

リポジトリのコンテナとしての信頼性に焦点を当てる

安定した運営 高度なキュレーション(収集・分析・再構成)

持続可能性 明確なライセンス・ポリシー

堅牢なデータ管理 データ利用の実績

高い専門性



信頼性の段階

- 1. Self-assessment: 自分で自分を評価。 「査読なし」の状態。
- 2. Certification: 第三者が公開情報を基に 評価。「査読を通った」状態。
- 3. Registry: re3data等、情報集約を担う プレプリントサーバ的なサービスも登場。
- 4. 査読の有無に関わらず、信頼性に関わる情報の公開自体は必要なこと。

Japan Open Science Summit 2018: 研究データ管理を考える〜データリポジトリのサービスとCoreTrustSeal認証〜(研究データ利活用協議会リポジトリ小委員会)doi:10.11502/joss2018_c5_01より引用



上 リポジトリの信頼性評価

- 1. 保存重視: CoreTrustSeal(CTS) 組織や予算の永続性など、データ保存の側面を重視。
- 利用重視: GeoLabel、 Enabling FAIR Data Project
 データ利用の基盤整備など、データ利用の側面を重視。
- 出版重視:出版社の要求水準 Fair Data Principles より軽い傾向だが、査読対応などの特定要求あり。
- **4. JDARNが目指すガイドライン** 自分たちのリポジトリのための評価・レベルを見極める。